

## 【資料 3】

### 教材として使用するビッグデータについて

#### (1) 地域経済データ

「地域経済分析システム RESAS」(提供：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部)

##### 【特徴】

- 産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム
- 地方創生の様々な取り組みを情報面から支援
- 経済産業省と内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部事務局)が2015年4月より提供

<https://resas.go.jp/#/42/42201>



#### (2) 購買データ

全国購買データ「True Data」(提供：株式会社 True Data)

##### 【特徴】

- 全国ドラッグストア、スーパーマーケットのレジから収集した5,000万人規模の購買データをもとに統計化した日本最大級のビッグデータ。「RESAS」にも搭載
- 食品、日用品、医薬品、化粧品など約500カテゴリーの商品をカバー
- 売上や単価の推移などに加え、年齢、性別など購入者層、リピート率や買い合わせなどの分析が可能

##### 【教材として使用するツール】

- ・ Dolphin Eye (True Data社が提供する有料ツール)

ドラッグストア版、スーパーマーケット版の2種類。売上推移やシェア、購入者層など、マーケティングに有効なデータを分析できます。過去2年分のデータを搭載しており、週に一度最新の購買データに自動更新されるクラウドサービス。

<https://www.truedata.co.jp/dolphineye>



- ・ ウレコン (True Data社が提供する無料ツール)

食品、日用品などの直近3ヶ月の購買データを簡単にチェックできるツール。利用登録するとウェブ上で無料利用できます。

<https://urecon.jp/>



※今後、上記に加えて、気象、SNS、センサ、メディア、エリア、政府統計など、さまざまなビッグデータをかけあわせた実習を検討していきます。

以上